

1 学校教育目標

- 心豊かで思いやりのある子ども ○自ら進んで考え、工夫する子ども
○健康でねばり強い子ども ○たがいに協力し、進んで実行する子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	確かな学力と豊かな心、健やかな体の本気で育てる学校 ○学力を定着させる学校 ○豊かな人間性をはぐくむ学校 ○体力・運動能力を高める学校 ○家庭・地域が協力し合う学校 ○組織的に教育活動を展開する学校
○児童・生徒像	○心豊かで思いやりのある子ども（あいさつをきちんとし、誰に対してもやさしく思いやりのある子） ○自ら進んで考え、工夫する子ども（自ら考え、自ら学ぶ意欲を身につける子） ○健康でねばり強い子ども（健康で、我慢強く最後までやりとげる子） ○たがいに協力し、進んで実行する子ども（自分で考え自分で判断し自分で行動できる子）
○教師像	○プロ意識をもち、教育活動を生き甲斐と感じる教師 ○子どもと共に自ら伸びようと努力し続ける教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○ 児童について

明るく素直で活発な児童が多い。肯定的な指導を行うことで、朝会や集会などでの集団行動時の規律が向上してきている。低学年での指導を手厚くすることで、学習規律や生活規律が整った学年・学級の構築が図れてきている。多様な教育活動を通して、心を育て自己肯定感を高めることが必要である。

○ 教職員について

ベテランから若手までの全員が本校の課題について強い危機意識と改善意欲をもって解決しようとしている。教職員全員で知恵を出し合い、学校経営、学年経営の視点で具体策をもって仕事を遂行していく体制が確立された。OJT制度、新人育成教員制度、主任教諭研修制度を活用しながら若手教員からベテランまでそれぞれの力量に見合った人材育成を行っている。

○ 家庭・地域について

学校全体の学習の場としての落ち着きや日常の教育活動の様子から学校への信頼関係が着実に深まってきている。さらに家庭に学校教育への理解と協力を求め連携していく必要がある。地域は、学校の成果を評価し、学校への期待感が高まっている。

【前年度の成果と課題】

重点的な取組事項－1 学力向上

○数値目標 平成26年4月区学習定着度調査 通過率73%

○実施結果 平成26年4月区学習定着度調査 通過率72.4% 【25年度69.7%】

通過率の数値目標はほぼ達成できた。SP表と個票の分析及び個別対策の時間を学年会に位置づけ、定期的に現状分析する場を設定した。中休み、給食準備中、放課後等あらゆる時間を利用して既習事項の個別指導を行った。九九免許証で検定を実施するなど基礎・基本の習熟を徹底的に図った。また秋田県式家庭学習ノートを導入し、自ら学ぶ態度と習慣を身につけさせようとした。一方で国語の「内容を読み取る力」に課題がある。

重点的な取組事項－2 保育園・幼稚園・中学校との連携

○達成目標

小学校スタートカリキュラムの1年生全学級実施 4月末までに学習規律・生活規律を守ることができる。

花保中学校と小中連携教育を進め学力向上を図る。

○実施結果

保育園・幼稚園との連携

・教員全員の交流研修と意見交換会によって園への理解が進み課題が明確になった。次年度は、園児が「平仮名が読める。」「正しい鉛筆の持ち方で、正しい筆順で自分の名前が書ける。」ように連携保育園を支援する。

・給食体験、図書室での読書体験、交流遊び等によって小学校進学への期待感を高められた

花保中学校との連携

足立区小中連携モデル校の取組みを継続して実施することができた。次年度は「学力向上のための授業力向上」にねらいを特化して連携を推進する。

重点的な取組事項－3 教師の指導力向上

○数値目標 管理職の授業評価 全員B以上 児童の授業満足度 90% 学校評価 90%

○実施結果 管理職の授業評価 全員B以上 児童の授業満足度 92% 学校評価 93%

ベテランから若手までの全員が本校の学習における課題について強い危機意識をもって、自己の授業力の改善を図った。特に「算数」の校内研究によって問題解決型で児童の自力解決を大事にした授業展開を身につけた。27年度も「算数」を中心に「足立スタンダード」に基づいた授業が展開できるようにする。

重点的な取組事項－4 心の教育の充実

○数値目標 学校評価項目 道徳授業の充実 90% 明るく楽しい学校 95% 無言清掃100%

○実施結果 学校評価項目 道徳授業の充実 93% 明るく楽しい学校 97% 無言清掃100%

全校朝会での講話と多くの表彰によって、児童の活躍を認め、結果を賞賛することで温かな学校風土の確立に努力した。Q U調査を年2回実施し、学級全体と児童個々の状況や学級内の対人関係をデータによって明確に把握した。データに基づく声かけや励まし、学級に合ったライフスキル、学芸会での成功体験で、児童の自己肯定感が高まってきている。朝のあいさつ運動は、児童の自主的な活動として活発に行われておりし、開かれた学校づくり協議会委員も定期的に参加した。心を豊かに育てるために、道徳授業を充実させただけでなく、城北特別支援学校小学部との交流、学年表現発表集会、百人一首などの取組を行った。数値の向上から一人一人の児童にとって成就感のある1年間であったと考える。無言清掃も定着してきている。27年度も一層の心の教育を推進する。

重点的な取組事項－5 保護者との連携による「協育・共育」

学校全体の学習の場としての落ち着きや日常の教育活動の様子から学校への信頼関係が着実に深まってきている。27年度は保護者との「協育」「共育」を一層進め、教育活動の充実を図っていく。

4 重点的な取組事項						
番号	内容	実 施 期 間				
		25	26	27	28	29
1	学力向上	○	○	○	○	○
2	保育園・幼稚園・中学校との連携	○	○	○	○	○
3	教師の指導力向上	○	○	○	○	○
4	心の教育の充実	○	○	○	○	○

5 平成27年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上
A 今年度の成果目標		平成27年度区学力調査 目標通過率（学校平均）
足立区平均通過率と同水準 前年度通過率の向上		74%
B 前年度の取組み内容		
項目	具体的な方策	
個の学力状況の把握と分析	担任引継ぎ会議 春季休業中実施 学年会で区学力定着度結果表及び個票の分析と対策を定期的に行う。 ・SP表の作成 4月実施時 ・区学力定着度個別表の活用 区学力定着度調査の活用 ・4月プレテスト・10月再テストの実施・2月プレテスト ミムの活用	
パワーアップタイム（朝学習） 花保ステップタイム（水曜日） 土曜授業（国語・算数） 夏季学習教室	・マスターテスト ・習熟のための個別指導 ・習熟のための復習授業	

放課後補習の実施	・帰りの会後の習熟問題 ・習熟度に見合った放課後個別指導 ・副担任講師の活用 ・担任以外の教員による補習教室 家庭訪問時・個人面談時 ・九九検定の実施	
家庭学習	・家庭学習カードの活用 担任の把握 ・秋田県式家庭学習の理解と実施 ・全家庭への周知 ・児童による内容の紹介	
C 前年度の成果と課題		
重点的な取組事項－1 学力向上		
○数値目標 平成26年4月区学習定着度調査 通過率73% 10月の再調査 通過率80%		
○実施結果 平成26年4月区学習定着度調査 通過率72.4% 10月再調査 通過率95.8%		
平成25年度69.7%から72.4%と4月実施の通過率の数値目標はほぼ達成できた。国語の通過率が67.4%から68.5%へ、算数の通過率が72.0%から76.4%と向上した。算数の伸びが著しい。教員の熱意と努力の賜である。SP表と個票の分析及び個別対策の時間を学年会に位置づけ、定期的に現状分析する場を設定した。中休み、給食準備中、放課後等あらゆる時間を利用して既習事項の個別指導を行った。また秋田県式家庭学習ノートを導入し、自ら学ぶ態度と習慣を身につけさせようとした。九九検定を実施し免許証を発行するなど基礎・基本の習熟を徹底的に図った。10月実施の通過率は、国語が93.9%、算数が97.6%、学校平均95.8%と向上した。国語の「内容を読み取る力」に課題がある。		
D 今年度の目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
個の学力状況の把握・分析・対策	・通過率を74%に向上させるとともに区の平均通過率より上回らせる。 ・個の状況を把握し個に応じた指導を行う。 ・学習定着度調査の再調査を実施し達成率90% ・「そだち指導」の適切な実施	○担任引継ぎ会議 春季休業中実施 ○学年会で区学力定着度結果表及び個票の分析及対策を定期的に行う。 ・SP表の分析及対策 ・区学力定着度個別表の活用 ・ポートフォリオの作成と活用 ○区学力定着度調査の活用 ・4月プレテスト ・10月再テストの実施 ・2月プレテスト ○「ミム」の指導 担当責任者の進行管理 ○「そだち指導」の導入と適切な実施
パワーアップタイム（朝学習） 花保ステップタイム（水曜日） 土曜授業（国語・算数） 夏季学習教室	・マスターテスト 年20回実施 全員合格 ・ステップアップテスト 年4回実施 全員合格 90点以上合格者 90%	○マスターテスト ○習熟のための個別指導 ○土曜授業 ・専科教員の複数授業 ・習熟のための復習授業 ○夏季学習教室 ・習熟度別個別指導
放課後補習の実施	・放課後に実施 30分程度	○帰りの会後の習熟問題 ○習熟度に見合った放課後個別指導 ○音読ボランティアの導入 ○九九検定の実施と免許証の発行
家庭学習	・秋田県式家庭学習の実施 ・月～金 全学級 学年×10分 ・提出率80% 3年生以上	○家庭学習カードの活用 担任の把握 ○秋田県式家庭学習の理解と実施 ○全家庭への周知 ○児童による内容の紹介 全校朝会
環境整備	・花保教室環境スタンダード 全教室実施	○花保教室環境スタンダードの企画立案

重点的な取組事項－ 2		保育園・幼稚園・中学校との連携	
A 今年度の成果目標		達成基準	
保育園・幼稚園・中学校との連携を密にし、入学時・の円滑な接続と基礎学力の定着を図る。		幼保中と連携して教育を進め、下記の 2 項目を達成する。	
B 目標実現に向けた取組			
項目	達成基準	具体的な方策	
花保中学校との連携	・花保中学校と共通の目的と組織のもと、教員の授業力を高めるための研究授業を実施し、検証する。 足立スタンダードに基づく授業が実施できる。 ・具体的な方策によって児童生徒の学力が向上する。 ・体験・交流活動の実施	○児童・生徒の学力定着度の情報交換 ○調整会議（月 1 回の実施） ○授業研究の相互実施と研究協議会参加 ・年間 10 回（内容） 研究授業 6 回（小 3 回 中 3 回） 全体会 2 回 指導案全体検討会 2 回 ・足立スタンダードに基づいた授業 ○中学校補習への小学校教員派遣（数学） ○生徒会学校説明会、合奏団交流、赤ペン先生、陸上コーチ等派遣	
保育園・幼稚園との連携	・円滑に小学校生活をスタートすることができ、4 月中に小学校生活に慣れる。学習規律や生活規律を守ることができる。 ・園児が、平仮名が読め、正しい鉛筆の持ち方で、正しい筆順で自分の名前が書ける。 ・小学校進学への期待が高まる。	○小学校スタートカリキュラム ・1 年生全学級実施、 ○南保木間保育園との連携 ・全教員の連携交流研修実施 ・意見交換会の実施 ・小学校教員を派遣し、区の指導資料に基づいて保育士を支援する。 園児が「平仮名が読める。」「正しい鉛筆の持ち方で、正しい筆順で自分の名前が書ける。」ように連携保育園を支援する。 ○9 ブロック連携会議での情報交換 園児・児童 幼稚園 1 保育園 4 ・給食体験 ・図書室での読書体験 ・1 年生との交流集会 ・展覧会・運動会への招待	

重点的な取組事項－ 3		教師の指導力向上	
A 今年度の成果目標		達成基準	
教師一人一人の指導力の向上		教師一人一人の指導力の向上（0JT ガイドラインに基づく教師一人一人の育成段階ごとの目標達成）	
B 目標実現に向けた取組			
項目		達成基準	具体的な方策
資質向上		都 0JT ガイドラインで求められている経験年数、職層に応じた目標の達成 ・ 基礎形成期の目標達成	○校長レクチャーの実施（年度当初） ○転入・新規採用教員研修の実施 ○自己申告書・面接の重視 ○ガイドライン目標提示 ○若手教員養成塾の実施 10 回以上
指導力・授業力の向上		・ 学年共通指導 ・ 授業の基本の確立 ・ 管理職による授業評価 4 段階 B 以上 全員達成 ・ 児童の授業満足度 90% ・ 保護者授業参観アンケート 「改善を要する」 3%以下 ・ 学校評価項目 90%	○学年集会・学年指導 ○足立スタンダードの習得 ○管理職の指導・助言 随時実施 ○授業力の向上を目標とした研究授業 ○教員相互の授業評価 ○教師の自己診断と管理職の授業評価 ○教師の意欲を高める授業参観評価 ○指導教諭の模範授業参観 ○区小研への全員参加

重点的な取組事項－４		心の教育の充実	
A 今年度の成果目標		達成基準	
児童一人一人の心の成長		学校評価による数値の向上	
B 目標実現に向けた取組			
項目	達成基準	具体的な方策	
心の教育の充実 道徳授業の充実 いじめ防止	・自己肯定感の調査で、肯定的評価の児童 ９０％ （２回実施） ・学校評価で「道徳活動に力を注ぎ、公開授業を行ったり、子どもに思いやりの心や規範意識を育てたりしている。」 90％ ・ＱＵ調査の再調査で数値向上	○全校朝会での講話と表彰 ○ＱＵ調査の２回実施と分析 ○ライフスキル教育の実践 ○道徳授業の充実 ○百人一首の暗誦と区大会への参加 ○いじめ防止にかかわる児童会活動 ○城北特別支援学校児童との交流 ○南花畑特別支援学校からの支援 ・特別支援コーディネーターの派遣 ○グッドジョブウィークの実施 ・グッドジョブカードプレゼント	
あいさつの徹底に取り組む	学校評価で「子どもが明るく楽しく生活する雰囲気になっている。」 95％	○あいさつキャンペーンの実施 ○教職員の登校時出迎えあいさつ ○保護者、地域への広報活動 ○あいさつボランティアの活動 ○開かれた学校づくり協議会の協力	
特別活動の充実	・特別活動のねらいをふまえた行事や集会、学級活動などを行う。	○児童の活躍の機会を増やし、結果を賞賛することで自己肯定感を高める。 ○表現集会の実施 各学年１回	
無言清掃	児童全員がねらいを理解して無言清掃を行うことができる。	○年間を通して実施し定着させる。	